

お客様各位

## 保菌検査項目「腸管出血性大腸菌」 についてのご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび集団食中毒発生事例に係る保菌検査目的菌であります腸管出血性大腸菌検査項目につきまして下記の通りご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

### 《対象となる検査項目》

項目コード	項目名	備考
3575	腸管出血性大腸菌	現在、検出可能な 50 種類の O 血清型について検索し、毒素産生性を検査いたします。
6303	腸管出血性大腸菌 O157	左記の O 血清型の大腸菌が検出された場合にのみ毒素産生性を検査いたします。
6304	腸管出血性大腸菌 O26	
6305	腸管出血性大腸菌 O111	

### 《腸管出血性大腸菌について》

- ・ 腸管出血性大腸菌は志賀毒素を産生する大腸菌で溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重篤な合併症を起こし、死に至ることもあります。
- ・ 腸管出血性大腸菌の中では血清型 O157 が最も多く、次いで O26、O111 が多くこの 3 種類で腸管出血性大腸菌の 90% 近くを占めます。
- ・ 平成 20 年 6 月、大量調理施設衛生管理マニュアルが、調理従事者の糞便検査に腸管出血性大腸菌を実施するように改訂されました。